

第44回 信行寺仏教講座（和讃篇）

第3首 「解脱の光輪きはもなし」

第4首 「光雲無碍如虚空」

令和6年9月8日（日）

第十三首	第十二首	第十一首	第十首	第九首	第八首	第七首	第六首	第五首	第四首	第三首	第二首
超日月光となづけたり	無称光となづけたり	難思光となづけたり	不断光となづけたり	智慧光となづけたり	法喜をうとぞのべたまふ	清浄光仏となづけたり	光炎王仏となづけたり	清浄光明ならびなし	一切の有碍にさはりなし	解脱の光輪きはもなし	智慧の光明ばかりなし
超日月光	無称光	難思光	不断光	智慧光	歡喜光	清淨光	炎王光	無対光	無碍光	無辺光	無量光

「讃弥陀偈和讃」と十二光

解脱の光輪きはもなし　光触かふるものはみな
有無をはなるとのべたまふ　平等覚に帰命せよ

（現代語訳）

阿弥陀仏のさとりの光は、どこまでも果てしなく照らす。その光のはたらきを受けるものは、みな有無の邪見を離れるといわれている。すべてのとらわれを離れさせる平等覚に帰命するがよい。

出典

七高僧の第3祖・曇鸞大師 『讃阿弥陀仏偈』



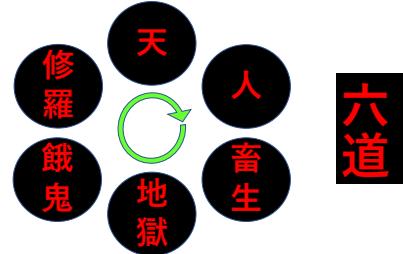
解脱の光輪限齊なし。ゆゑに仏を
また無辺光と号けたてまつる。
光触を蒙るもの有無を離る。この
ゆゑに平等覚を稽首したてまつる。

語句説明

解脱・・・

煩惱にまといつかれた状態から抜け出すこと。
そのことは、六道輪廻から抜け出すことでも
ある。仏の境地。

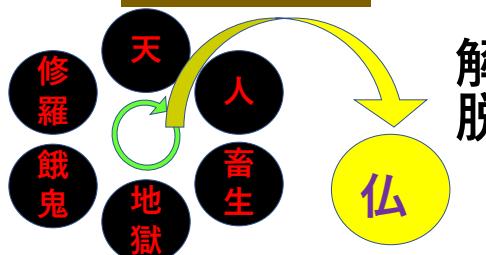
佛教の世界觀



六道

我々は、生死をくり返しながら、迷い
の世界を転々としている。

佛教の世界觀



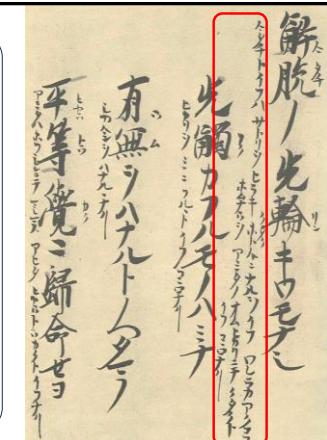
阿弥陀仏の光明（名号）のはたらきによつて、迷いの世界から悟りの世界へと生まれて往く。

仏のさとりを得るということは、人々を自在に浄土へ導いていく存在になる。ということである。



解脱

解脱といふは、覚りをひらき、仏になるといふ。われらが悪業煩惱を阿弥陀の御光にて碎くといふこころなり



光触（こうそく） . . .

光を身に受けること

有無をはなる . . .

有見と無見という偏った考え（邪見）を離れるということで、つまり迷いを離れるということ。有の邪見とは死んでも常住なる我（靈魂）が存在すると執着する「常見」であり、無の邪見とは、死ねば身も心も滅して転生することなしと執着し、浄土や地獄などを否定する「断見」である。

正信念仏偈（龍樹菩薩章）

龍樹大士出於世 悉能摧破有無見
宣說大乘無上法 証歡喜地生安樂

（現代語訳）

釈尊は楞伽山で大衆に、「南インドに龍樹菩薩が現れて、有無の邪見をすべて打ち破り、尊い大乗の法を説き、歡喜地の位に至って、阿弥陀仏の浄土に往生するだろう」と仰せになった。

光雲無碍如虚空 一切の有碍にさはりなし
光沢かふらぬものぞなき 難思議を帰命せよ

（現代語訳）

阿弥陀仏の光明は、雲が大空にあまねくゆきわたってさまたげるものがなく、また雲が雨を降らして衆生を潤すように、光明のはたらきを受けないものはありません。心を言葉のおよばない阿弥陀仏に帰命するがよい。

第十三首	第十二首	第十一首	第十首	第九首	第八首	第七首	第六首	第五首	第四首	第三首	第二首
超日月光となづけたり	無称光仏となづけたり	難思光となづけたり	不断光仏となづけたり	智慧光仏となづけたり	法喜をうとぞのべたまふ	清淨光仏とまうすなり	光炎王仏となづけたり	清淨光明ならびなし	一切の有碍にさはりなし	解脱の光輪きはもなし	智慧の光明はかりなし
超日月光	無称光	難思光	不断光	智慧光	歡喜光	清淨光	炎王光	無対光	無碍光	無辺光	無量光

「讚弥陀偈和讚」と十二光

出典

七高僧の第3祖・曇鸞大師 『讚阿彌陀仏偈』



光雲無礙にして虚空のごとし。ゆゑに仏をまた無礙光と号けたてまつる。
一切の有礙光沢を蒙る。このゆゑに難思議を頂礼したてまつる。

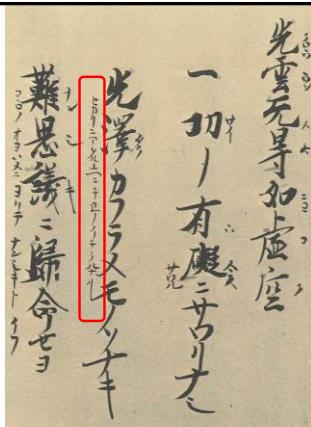
「阿彌陀仏の光明のはたらきによつて
「信心の智慧」が生じる

智慧の念仏することは 法藏願力のなせるなり
信心の智慧なかりせば いかでか涅槃をさとらま

(正像末和讃)

光 沢

光にあたるゆえに智慧の出でくるなり



「雲」の四義

法藏『華厳經探玄記』



普遍…普くゆきわたる
沢潤…潤いをそなえる
蔭覆…ものを覆い隠す
法雨…雨を降らせる

(高木俊一『浄土和讃通釋』)

語句説明（前回分）

智慧…

如來の智慧には実智と権智との二つの側面があるといわれている。実智というのは空・無我をさとる智慧ともいわれ、善も悪も優も劣も、男も女も、迷いも悟りもどれも分けてなく平等に見る智慧。この智慧は分け隔てしない智慧だから、無分別智などともいわれる。

権智というのは、善人も悪人も、迷いもさとりも平等に見る智慧を根底に持ちながら、しかもその上で悪を善に導き、迷いをさとりに導くときに、善、悪、迷、悟を区別、分別して知らなければならない。この衆生を救うときにはたく智慧が権智である。

内藤知康（本願寺派勸学）



仏智が空無我を知るというのは、貪著するを遠離する、即ち、執着しないという形で、執着すべきでないことを知るのである。それに対して、獲信の行者が空無我を知るのは、執着しないという形ではなくして、あくまで、執着すべからざるものに執着している自己を悲嘆する、という形で知るのである。

（「信心の智慧に対する一考察」）

まことに知んぬ、悲しきかな
愚禿鸞、愛欲の広海に沈没し、
名利の太山に迷惑して、定聚
の数に入ることを喜ばず、真
証の証に近づくことを快しま
ざることを、恥づべし傷むべ
しと。（『教行信証』信文類）



親鸞聖人「安城の御影」